

「栄光の教会を、ご自分の前に立たせるため」エペソ5：26-27

堀田修一 20・8・30

I これまで教えられたことの確認

1. 「一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります」I コリント7：7。結婚も独身も神の賜物である（マタイ19：21）。人と比べないで、主のみこころを祈り求め、自分に与えられた賜物、人生を歩みたい。私達の人生の出来事のすべてに神のご支配を認めたい。親も、夫も妻も、子ども達も完全な人はいないが、神が私達に与えられた大切な存在である。

2. 結婚生活の中で、よその人には見せない自我と自我とが、ぶつかり喧嘩する事がある。喧嘩には二種類がある。

①喧嘩が起こり、それ以上、向き合う事を避け、ずっと分離したまま解決がないままのものがある。

②喧嘩が起きて、夫がキリスト者であれば、妻のかしら（かしらとは、人格の優劣ではなく、神が与えられた役割＝リーダーシップ）である夫は、祈りつつ妻に「仲直りの為に、話し合いをして歩み寄ろう」とリーダーシップを発揮するなら幸いである。二人で悔い改め、神に近づくなら、成長の機会となる。夫がキリスト者でない場合は、キリスト者の妻は、和解できるように祈りつつ歩み寄りたい。「みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって神のものとされるためです」I ペテロ3：1。愛と忍耐を示し続け、家族の救いの為に祈り続けたい。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒16：31）。

3. 「病める時も貧しい時も、どんな時も相手を真実に愛します」と神に誓った結婚式の後、お互い、相手の欠点、批判したい点が見えてくる。その時こそ、自分の愛では無理と自覚する時。主から愛をいただいて、主が、まず、罪だらけの自分を愛して下さった恵みを感謝し、互いに愛し合い仕え合う。結婚には、神からの秩序（従う面）と愛（寛容）が必要。夫と妻の間に主の愛の補給が必要＝礼拝とディボーションは補給の時。子育てで疲れている妻に、礼拝メッセージをじっくり聞けるように、その時間、子どもの世話をする夫は幸い。早朝礼拝と10時半からの礼拝に分担して参加しつつ、みことばを聞いておられる家族もおられる事は幸いである。

II 「キリストがそうされた（教会のためにご自分を献げられた）のは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです」：26, 27。※エペソ5：25-32は、貴重な箇所である。キリストが、すべての人を愛しておられるのは事実だが、エペソ人への手紙だけに、「キリストが教会を愛し」とある。キリストは花嫁である教会（私達、キリスト者の集まり）に大きな関心を持っておられる。主は教会（花嫁）を見ておられる。教会に対する主の関心、愛、誇り。これが教会に対する花婿なるキリストの愛の特徴。教会をご自分にとって、栄光の教会として迎えることが出来るように願っておられる。これこそ、花婿キリストと花嫁教会との関係。主は、ご自分の花嫁である教会のために、一切の事を成さる。主は、私たち一人一人を愛しておられると同時に、キリスト者の集まりである教会を花嫁として命をかけて愛しておられる。※それゆえに、教会は、①福音「宣教」と②教会を建て上げ（成長）、教会を大切にす。主が愛される教会に繋がっている事は恵み！主の愛は、受けたいという欲望に支配されず、むしろ与えたいというアガペーの愛。花婿である主のほうから花嫁である教会（私達）に愛を示された。私達の益の為に与える事を望まれる愛。主と教会の関係は、夫と妻の関係の目標。最終的には、奥義としての関係である結合に進む。：31。

Ⅲ キリストの教会（私達）への愛、態度の3つの点。

1. 主が花婿である教会の為にすでに、して下さった恵み＝主は教会を愛し、教会の為にご自身をささげられた。十字架で私達の罪の為に死なれた：贖いの恵み。「神がご自分の血をもって買い取られた（贖い）神の教会」（使徒10：28）。主は、教会を花嫁として迎える前に、永遠の滅びから買い戻す必要があった。私達は、教会に属する前に、救い出され、贖われ（買い戻され）なければならない。そうして下さった恵みを主に感謝したい！主は、ご自分を無にして、教会（私達）を愛し、教会を贖おうと、ご自分の事ではなく、教会（私達）の事を考え、身代わりに死なれた。私達が、互いに愛する事、隣人を愛する事が難しくなる時、いつでも、愛の主のもとに行きたい。常に、主なる神からアガペーの愛（犠牲を喜んで払い愛する）を受け続け、その愛に留まり、主の愛で愛し合う。

2. その愛ゆえに、主が今も教会の為に成し続けておられる恵み＝「みことばにより、水の洗いををもって、教会をきよめて聖なるもの（聖別）とするためであり」：26。主が教会（私達）の為に、ご自身をささげられた目的＝①罪の赦し、さばきと地獄＝永遠の滅びからの解放。贖い、義認の恵み。②教会（キリスト者の集まり）が聖められ続ける事＝聖化の恵み。主が、教会をご自分の血により滅びから買い戻されて終わりではなく、今も教会（キリスト者の集まり）を聖め続けておられる！私達が、主のみことばに従おうとしないなら、神は、別の方法で私達、教会を洗い聖め続けられる。「霊の父は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、訓練される（みことばや痛みや事が上手く行かない事等を通して罪に気付かせ神に立ち返るように導かれる）のです」（ヘブル12：10）。神は、私達の罪の隠れ場所に光を当て、汚れと恥すべき事を除き、私達を聖められる。「水の洗いををもって」＝洗礼、バプテスマ：霊的事実、恵みを表す、象徴する聖なる儀式。それが表すもの＝

①主の十字架を自分の罪の為に信じる信仰により刑罰から救い出された、罪責から洗われた恵み。主の十字架の血による聖め。

②聖霊によりキリストに私達が霊的に結合されたという事実の恵み。主を信じ赦され主と結合し、その恵みを表すバプテスマ、洗礼を受け、キリスト教会の会員に受け入れられる。「みことばにより」＝神の聖化の働きは、みことばによりなされ、御聖霊がみことばを用いて、私達の内に聖化の業をされ続ける。みことばは、聖霊により理解され、聖霊はみことばを用いられる。すべての霊を信用してはならない。聖書のみことばで吟味すべき（Iヨハネ4：1）。私達、教会を聖いものにするのは、66巻の聖書全体。旧約新約すべて必要で神が与えられた。見事なバランスある霊的な栄養。聖書全体を読み味わいたい。

3. 主の御業の将来の完成、栄化＝「ご自分で、しみや（罪のしみ、汚れ）、しわや（罪による機能の減退）、そのようなものが何一つない、聖なるもの（積極的に聖い）傷のない（罪のない、主の義）ものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです」：27。花婿なる主は、花嫁である教会をご自身の前に立たせる日（再臨の日）、その瞬間を待ち望んでおられる。その日「ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださる」ペリピ3：21。私達、個人個人に、そして全体としての教会も、主の御姿の栄光を受け罪がなくなる！最高の楽しみ！罪のない自分、教会、世界は、いかに素晴らしい事か！主は、栄化された花嫁である教会を全被造物に見せたいと思っておられる！花婿が花嫁を誇りに思い、家族、友人に紹介したい思い。花嫁である私達も最高の花婿キリストを愛し、誇り喜ぶ。「私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。子羊の婚礼の時が来て、花嫁は用意ができたのだから。花嫁は、輝くきよい亜麻布をまとうことが許された」黙示録19：7, 8。「子羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」：9。主を信じ主の教会の会員となり、主の花嫁なる教会として愛され聖められ続けている幸いを感謝します。主の花嫁にふさわしく聖め続けて下さい。主の日を待ち望みつつ互いに夫婦としても、教会員同士でも愛し合う者として下さい。主の愛と聖さをいただいて、互いに聖められ愛し合い、主の姿に成長する交わりが持てますように！